

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月22日(木) 2校時  
場 所 今市っ子図書館  
授業者 担任・学校司書

1 単元名 どうぶつってすごい! 「みんなのどうぶつ図かん」を作ろう  
(教材『ビーバーの大工事』 なかがわ しろ 東京書籍 2年下)

### 2 単元の目標

- 動物の生態に興味をもち、進んで本を読んで調べようとする。 【関心・意欲・態度】
- 知りたいことに関係のある大事な言葉を見つけながら、文章を正しく読み取ることができる。 【読む能力】
- 動物のすごいところについて自分の思いや考えを加えながら発表し合うことができる。 【読む能力】
- 主述の整った文章を書くことができる。 【言語に関する知識・理解・技能】

### 3 基盤

#### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第1・2学年に示されている、C読む(1)イの「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」及びオ「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」をねらいとしている。言語活動は、C(2)ウの「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」に対応する。

教材文『ビーバーの大工事』は、木を切り倒し、木や石や泥でダムを作り、そのダムの中に巣作りをするというビーバーの生態を、体の構造や機能と関連させて説明した文章である。この大工事が自分の命を守ることに繋がっているという動物の能力や知恵を知るとは、児童が動物に興味・関心をもって学習することができると思う。

『ビーバーの大工事』は、20の形式段落からなっている。ビーバーの行動を主体とした「中心的な文章」と、ビーバーの歯や尾などの事柄を説明した「補足的な説明」の組み合わせによる簡潔な文章である。「木を切りたおす」「ダムを作る」「すを作る」という3つの意味段落の構成を見出しで明示しているため、まとまりごとにひみつを見つけることに取り組みやすい教材文である。更に、写真や挿絵が豊富に掲げてあったり、擬音語、修飾語、比喩表現、具体的な数値などビーバーの様子が生き生きとわかる表現が多く使ってあったりするので、児童にとって内容を読み取る手助けになる。

#### (2) 指導観

本単元では、動物のすごいところを見つけ、まとめて伝え合って「みんなのどうぶつ図鑑」を作成する。

第一次のはじめに「どうぶつってすごい! 『みんなのどうぶつ図かん』を作ろう」という単元の最終目標を伝え、学習の見通しをもたせる。そして、学校司書が関連図書の紹介を行ったり、いつでも必要な資料が読める環境づくりをしたりして並行読書を促し、児童の意欲を高められるようにする。

第二次では、まとまりごとに書かれている内容を大事な言葉を探しながら順序よく正しく読み取り、ビーバーのすごいところ(ひみつ)をカードに書いていく。写真や挿絵を使って文章に書かれている大事な言葉などをとらえさせたい。カードは、その後の動物図鑑の作り方にもつながるため、

単元を貫く言語活動として位置付けているカードと同じ型にしている。そのカードを使って全員で「ビーバー図鑑」を作り、次の活動の見通しをもたせたい。

第三次では、自分が調べたい動物について調べ、「どうぶつ図かん」を作る活動をする。並行読書で読んだ本の中から自分が調べたい動物を決め、資料を選ぶ。選んだ資料から大事な言葉を見つけて読み取るために、動物のすごいところについて、体の特徴、得意なこと、かっこいいこと、その他（住んでいる場所、食べ物、体の使い方など）の視点を提示することで、様々な視点から動物のすごいところを見つけることができるであろう。作った図鑑を友達と発表し合い、感想を伝え合う活動を設定することで、自分が読んだ図書資料と比べたり、児童の新たな興味を引き出したりすることができ、児童の本への興味・関心を広げていきたいと考える。

本時は、調べたことを自分の考えと共に友達に発表し合う活動である。自分の調べた動物のすごいところの中から一つを選び、なぜすごいと思ったのか、自分の考えと共に発表する。その際のグループは、調べた動物が同じ児童をグループにし、同じ動物でも友達との違う点や同じ点に気づかせ、友達が読んだ本にも興味を持たせるようにする。また、発表し合うときには、ワークシートを使うことで、自分と友達の考えとを比べながら聞き合うことができるようにする。

#### 4 本単元と情報リテラシーのかかわり

「つかむ」

- ・教師が作った動物図鑑を提示して「みんなでどうぶつ図かんをつくろう」という学習の目標を伝えること、児童と本との出会いを工夫することで、児童が活動への興味や見通しをもつことができるようにする。

「さがす」「えらぶ」

- ・目次や見出しなどから児童が「どうぶつのすごいところ」を見つけやすい本を選書しておく。
- ・動物のすごいところを見つけるための視点（体の特徴・得意なこと・かっこいいところ等）を提示する。
- ・大事なところを記録するカードは、視点別にカードを色分けすることで視覚化し、様々な視点を意識しながら取り組めるようにする。

「まとめる」「発表する」

- ・自分の思いや考えを伝え合えるよう、カードには、動物のすごいところだけでなくなぜすごいと思ったか自分の思いや考えを書く活動を取り入れる。
- ・同じ動物を調べた児童でグループを構成することで、自分の思いや考えと比べながら聞いたり伝えあったりできるようにする。

#### 5 「読むこと」（説明文）の系統性と本単元における学校図書館活用教育との関連

教材名	単元のねらい	
①たんぼぼ	時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校司書による本の収集、本の紹介</li> <li>・司書教諭による選書、目次、索引指導</li> <li>・カードの工夫（色、視点、吹き出し）</li> </ul>
②ビーバーの大工事	大事な言葉を探しながら事柄の順序に気をつけて読み、自分の思いや考えを加えながら発表し合う。	
③あなのやくわり	大事な言葉や文を見つけたり、文章の内容と自分の経験を結び付けたり、理由を考えたりしながら読み、自分の考えを発表し合う。	

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・動物のすごいところを見つけるために、進んで本を読んで調べようとする。	・大事な言葉に気をつけて読み、動物のすごいところについて書かれている内容を正しく読み取っている。 ・自分の思いや考えを加えながら発表し合う。	・主語、述語をとらえて図鑑の文章を書いている。

7 単元の構想と評価の計画 (全18時間)

次	時	目 標	学 習 内 容	評 価			学校図書館との連携		
				関	読	言		評価規準 (評価方法)	
第一 次	1	動物のひみつに関心をもち、単元のゴールの見通しをもつ。	○動物図鑑の見本を見て、単元の見通しをもつ。 ○学校司書による本の紹介を聞き動物の本を読む。	○			○		
	2							動物の本	【関】動物の本を読み、生態について興味をもって読もうとしている。(観察)
第二 次	3	順序に気をつけて、教材文「ビーバーの大工事」を読み取る。	○ビーバーのすごいところ(ひみつ)を探しながら読み取る。  ○読み取ったことをもとに伝えたいことを選んだり、図鑑の文章の書き方を考えたりして、「みんなのビーバー図鑑」を作る。	○	○	○	○		
	4							並行読書	【読】大事な言葉を探しながら、順序に気をつけて正しく読み取っている。(発言・ワークシート) 【言】主語、述語に気をつけて文章を書くことができる。(発言・カード)
	5								
	6								
	7								
	8								
9									
第三 次	10	動物についての本を読んで動物のひみつを見つけ、図鑑を作る。	○調べたい本や図鑑の利用の仕方を学習する。(目次、索引の使い方)  ○視点を確認する。  ○他の動物について調べ、「すごい」と思ったことの中から自分が伝えたいことを選ぶ。 ○伝えたいと思うことをもとにして図鑑の文章を書き、図鑑を作る。 ○作った図鑑の文章の中から友達に発表したいことを一つ選び、自分の思いとともにグループで内発表し合う。 ○ほかの動物の友達と図鑑を発表し合う。	○	○	○	○		
	11							【読】図鑑を作るために、大事な言葉に気をつけながら本を読んでいる。(発言・カード)  【言】主語、述語に気をつけて、図鑑の文章を書くことができる。(発言・カード) 【読】自分の調べたことと思いを友達と発表し合うことができる。(発言・ワークシート)	
	12								
	13								
	14								
	15								
	16 (本時)								
	17								

18		○一冊の図鑑にまとめ、学習活動の振り返りをする。				
----	--	--------------------------	--	--	--	--

8 本時の学習（第三次 16時間目）

(1) 本時の目標

自分の動物のすごいところを自分の思いや考えと共に発表したり、感想を伝え合ったりすることができる。 【読む能力】

(2) 展開

主な学習活動と予想される児童の反応	○教師の支援 ☆評価
<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>しらべたどうぶつの「すごい」ところを、友だちとはっぴょうしあおう。</p> </div> <p>2. 自分の書いた「動物のすごいところ」をグループで発表し合い、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごいところがまだまだあるんだな。</li> <li>・自分と同じことを見つけているな。</li> <li>・自分とちがうことを見つけているな。</li> <li>・友だちの本も読みたいな。</li> </ul> <p>3. 発表し合った感想を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じことを見つけていた人が何人もいた。</li> <li>・みんなすごいところを見つけていた。</li> <li>・友だちと同じことを見つけてうれしい。</li> <li>・ほかの友だちの調べたことも知りたいな。</li> </ul> <p>4. 学習の振り返りと次時の予定を確認する。</p>	<p>○学習の見通しをもたせ、意欲を高める。</p> <p>○グループ構成は、自分の調べたことと比べながら聞くために、調べた動物が同じ児童同士にする。</p> <p>○作った図鑑を見せて発表したり、調べた図書資料を手元に用意したりすることで、発表の内容が相手に分かるようにする。</p> <p>○友達と発表し合っ感じたこと、考えたことなどをワークシートに書かせる。</p> <p>☆動物のすごいところと自分の思いや考えを友達と交流し合うことができる。【読】（発表、ワークシート）</p> <p>○次時はグループをかえて発表し合うことを伝える。</p>

(3) 本時の評価規準と支援

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童の指導の手立て
動物のすごいところについて自分の考えを発表したり、友達の発表について自分の考えと比べながら発表したりすることができる。	動物のすごいところについて自分の考えを発表したり、友達の発表について自分の考えを発表したりすることができる。	発表する内容を決め、発表の仕方を指導者と確認しながら、発表するようにする。

(4) 研究の視点

図鑑を用いながら発表したことや、同じ動物を調べた児童でグループ構成したことは、自分の思いや考えを伝え合うのに有効であったか。